

〔東京桑野会〕

東京桑野会の「今」

高松 ゆたか

(七十四期)

ある日の総会。

議長「人事を審議します」「次期会長について発言を求めます」……「はい」と挙手あり。「91期の渡部です」「はい、どうぞ」「私は、現会長の古川清さんを推薦します。」と発言され……続けて約5分、推薦の理由を主旨、次のように話されました。

「古川さんは、私が安高生の時、東京桑野会



古川清東京桑野会会長挨拶

の活動ぶりを全生徒の前で講演され、安高卒業後にこそ發揮される「安積健児」について話されました。多様な分野で、理系文系を問わず、いつしか社会（組織）の中核となり、また研究者、専門家として活躍されているさまは、ほかでもなく、安積で培った開拓者精神と、在校時の生徒同士の信頼と友情が響きあつて……今がある」と。

そして括りに、「わが東京桑野会は安積の紫旗のもとに結集して、『桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会』（注：後記）を、胸に秘めて、今も熱く息づいています。」と、結ばれました「是非、ご支援をお願いいたします」

総会時の会長人事は理屈抜きで、会の近未来を決める。議長も襟を正して、審議を告げ、すべての目線は、議長に集中して、会場は静まります。会場を見渡して、おもむろに意見を求めると、キツパリと「ハイ」と挙手があり、「91期」の前記の発言でした。会場の視線は、すべて「91期」に集中して、現会長古川先輩推薦の熱弁に注目し拝聴。議長は、閑古鳥よろしく開店休業の様子。やがて、推薦の熱弁が「宜しく願います」と呼びかけると、同時に万雷の拍手。

議長曰く「議長が、議事の進行をする前に、



甲子園出場時監督田中誠（91期）先生講演

次期会長が決まったようです」とプライドの霞んだような余談を述べて「それでは、次期会長の推薦はここで打ち切り、賛否を問います」「次期会長は古川さんでよろしいでしょうか」先の拍手に勝るとも劣らない賛同を確認して「次期会長は63期古川清さんの続投に決まりました」と宣言。ようやく、議長の復権を得てホッとしましたのです。決定を見届けた古川さんに、早速次期会長としての挨拶をお願いしました。成り行きを見守られていた古川さんは「元気な間は、会長を引き受けます……」と、あの赤銅の健康色と、大きな二重の目を輝かせながら、「微力ながら……」と謙遜されつつ「母校と桑



全員による校歌斉唱

野会に貢献したい」と挨拶。かくして、東京桑野会の「今」があります。

古川会長の前会長は、日本住宅公団総裁を務められた42期澤田悌さん。私は澤田さんが1983年会長に就任される数年前に、桑野会に顔を出すようになりました。事の起りは同郷本宮の67期水口禎さん（私の兄斎藤雅一と同級）からの「呼び出し」でした。桑野会の雰囲気慣れたのは、やはり本宮の先輩桑野会囲碁倶楽

部幹事の65期川井栄一郎さんに囲碁倶楽部入会を誘われた頃からです。「今」を述べるのに少し遡りました。

ある日の澤田悌さん。

八重洲口日本棋院での定例碁会。澤田さんのいつもの口癖「何事も面白おかしく」を繰り返し吹きながら「このあいだ、古川清君が帰国したよ」「会長、ただいま帰国しましたと、電話があつてね……」「必ず挨拶をしてくるから、感心するよ……」と言いつつ、逆八の字の眉毛がピクピク動き、マナコに笑みを浮かべて、全席に目配りをされる様子は、「オレの後にどうだろう」が響いていたように思いました。

碁会常連、57期太田享二さん、58期山本佳さん、63期谷本法朗さん、64期長谷部照夫さん、67期杉山享資さん、65期川井栄一郎さん、71期大和田允彦さん、73期関根健治さん、の諸先輩たちが同席されておりました。

63期古川清さんが東京桑野会戦後・第5代会長に就任されたのは1999年4月26日と記録にあります。以来今まで18年が経過しました。時間がたつにつれ「東京桑野会に古川あり」の存在感は人望「熱く、まさに「象徴化」してきたかのように思えます。

古川会長が目指している桑野会のあり方は、一貫して「裾野を強化する」「若い世代の参加

を期待する」が、行動の理念にあつて、後輩に話しかけること飲み交わすことを「良し」とされ、母校に赴いては、現役の学生に目線を合わせて「熱く」話しかける平等性があり、その持ち合わせたお人柄の故に、今では卒業間もない大学生の面々も、数年前の総会から男女共に姿を見せはじめています。

その昔、「共学反対」の大論陣を張った桑野会の多くの安積健児は、今ではただ眼を細めるばかり、常態化した自然な流れの風景を目の前にして、女子参加の違和感は自然に消えてしまつたように思えます。

一方、組織の面では、若手の人材による活動と時代の先取りを意図して、80期の上石利男さんを事務局長にお願いしたことは「良かった」の一言。若手が取り巻き、新風が程良く吹いてきて、桑野会の雰囲気は「寡黙な猛者」から「語る賢者」に体質を変えてきているようです。

東京桑野会の運営は、定例総会を念頭に、多くの参加者を夢見て、役員会を適時開催、会場には、美酒と美味の待ち受ける、議題を包括したキヤパが設営される。桑野会らしく美女こそ期待できないが、仕事を早引きしても、遅刻をしても、必ず駆けつけてくるような面々がいて、その責任感も含めて実に頼もしい。顔を合わせ、先輩後輩の秩序をさりげなく保ちながら、桑野

の母校に学んだ友情と信頼が話題を進める。指名するまでもなく、各役員の発言が相次ぐ。

「原発の現在は何が真実なのか」「放射線と生物は共存できるのか」「貨幣経済の社会で原発は合理的」「事故を起こせば、人が住めない現実」「土や海の汚染を乗り越えられる方法論はあるのか」「湯川博士は、科学は科学で制御はできない……と」議題以外に花が咲けば、会長も若手に負けず持論を繰り出す。会長の懸命に語る見解は、今どき、後日「証人喚問」される恐れを予想して、ここでは明言を避け、非公開とさせていただきます……(ホントガイ?)

手元に、差出人「新神田法律事務所」(80期上石利男)の召集案内を記してみます。

日時	2017年6月1日13:28
宛先	80期安部 直文 73期関根 健治
	63期古川 清 107期後藤 大
	74期高松ゆたか 79期佐藤 重夫
	86期坂本 浩一 78期宗像 良保
	84期小林 伸久 69期齋藤 英彦
	82期石井 俊一 76期浅川 章
	88期大矢 真弘 81期丹治 則男
	113期中舘 透 78期椎野 靖啓
	91期渡部 良朋 88期渡辺 政信
	86期芳賀 雅美 89期鈴木 修一
	77期和田 正哉 78期桜井 淳

(注) 敬称略順不同

件名 ご苦労様でした

東京桑野会 役員各位

昨日の総会・懇親会にご苦労様でした。おかげさまで、結構、盛り上がりました。特に、共学の流れはいかんとも抗しがたく、女性の時代を侮るなかれ、の感を深くしました。つきまして、古川会長のご提案で、慰労会・反省会をやるうとうということになりました。

日時 6月26日(月)午後6時

場所 稲庭と山菜の店「楽農円」

千代田区内神田3-24-5

エッサム神田ホール2号館

03-5298-6019

会費 飲み放題付きで5000円

この参加の有無をメール・電話等でお願います

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町

2-9-5東園ビル7F

TEL 03-3252-9673

FAX 03-3252-9673

東京桑野会事務局 幹事長

80期 上石利男(あげいしとお)

前記の「共学の流れは……」の背景

H29・5・31に行われた東京桑野会総会(目白

椿山荘)には女子の卒業生のほかに、安積女子高校卒業生の合唱団:安積フェメールコール東京&安積黎明高等学校合唱団の第3回ジョイントコンサートのPRのために、フェメールコール東京代表の庄司紀子さんはじめ10名の「歌手」が来られ、その美しき和音が会場に共鳴して、その優しき美声に聞き惚れて魅せられて会場は……SILENCE……。

今未だ、ホオバと白線日本の男子の色濃い特徴が潜在する桑野会に、乙女の姿がチラホラすれば「抗しがたい」とは実に正直。更に、桑野会の誇る「応援歌」をはるかに乗り越えたフェメールコールの清純な響きは、「女性の時代を侮るなかれ」と……。確かに、ただ黙して語らず、果然と聞き入るのみの会場のSILENCEでした。「いかんとも抗しがたい」花かつみの乙女らの、過ぎ去った名残が、余韻として今未だ冷めやらぬうちに「古川会長自らの呼びかけ」があり、事務局もこれを素直に受けて、速やかに役員会を招集……共学の持つ不思議な魅力は、総会後も胸中穏やかならず「この先どうするのだ……」と言わんばかり。東京桑野会の体質も新たな成長の変革期にさしかかって来たようです。ここで意外に知られていない東京桑野会の「部活」について。

1 東京桑野会ゴルフ倶楽部・年1〜3回…3

〔4組〕幹事77期和田正哉さん

2 東京桑野会囲碁倶楽部…年6回会場…有楽

町日本棋院…上手下手関係なく「切磋琢

磨」の場。幹事74期高松ゆたか

古川会長も両倶楽部に参加され、その向上心には恐れ入るばかりです。常時歓迎です。

末筆1

東京桑野会ホームページ委員会86期芳賀雅美さ

んから、あまり見かけない貴重な情報を頂きました。紹介します。

東京桑野会歴代会長に就いて

高松ゆたか様

2月6日(月)の編集会議で高松さんから頂きました宿題を2月7日に回答しましたが、さらに調査した結果新たに分かったことを下記します。会報NO1号記事を精読し、ネットで検索調査してみました。

戦後復興期の東京桑野会会長職(会報1号「1982/4/1」記事より)

代・氏名・卒業期・就任時の肩書き・就任年月日

1・水戸政治・21・毎日新聞社論説員・1951年7月

2・三沢敬義・26・東京大学同愛記念病院院長・

1956年…?

3・壁谷裕之・31・朝日新聞社社友・1971年…?

4・澤田 梯・42・日本住宅公団総裁・1983年4月15日

5・古川 清・63・宮内庁東宮大夫・1999年4月26日

注)一部推定の時期があります

戦前は、明治26年(1893年)11月5日に「向島洋酒店すみや」にて福島県尋常中学校茶話会を開催とあります。

これが第1回目の東京桑野会総会と言われています。発起人は新城新蔵(1期卒)他6人。会の記録として、少なくとも太平洋戦争復興後については、残す必要があると考えます。

末筆2

東京桑野会の「今」の結びに、71期増子邦雄先輩から受診した2015年1月6日受信の文章の一部を紹介したいと思います。

昨年は、母校の130周年の記念すべき年でしたが、今年には新たなスタートの年、戦後70年の節目の年です。

卒業生にも多種多様な人材が出てきており、昨年末の衆院選でも政党代表や候補者にも名を

連ね大いに話題を振りまいた人もいましたが、

戦後70年の平和国家日本が何故ここまで保てたのかを、よく理解できていない輩もいるようで、将来ちよつと心配です。歴史的事実には見解や解釈は必要ありません。ちゃんと学んだかどうかの問題です。

今年私の目標は、健康で笑顔の一年です。先輩は、私の近くに住まわれており、薫陶を受けました。1916年の穏やかに晴れた日を見計らうように、孤独な旅に出立されました。

末筆3

東京桑野会会報の表題の中ほどに決まって表示される提言があります。仮称ですが、紫旗宣言とでも言うべき「全3行の全文」を記しておきます。

① 桑野の母校に学んだという共通の経験に結ばれた同窓の親睦の会であること

② 会員はみんな仲良く、相親しみ楽しい会であること

③ 何らかの意味で会員の頼りになるような面もある会であること

東京桑野会は、古川清会長を中心として、いよいよ近未来の新たな開拓を進めることになりそうです。工夫に工夫を重ねて、峠を越してゆきたいところです。東京桑野会の「今」のほんの一部を紹介して筆を収めます。

2017/H29/8/2

51